

財 産 目 録

<b>I 資産総額</b>	10,648,425,714 円
内 基本財産	10,036,170,622 円
運用財産	612,255,092 円
<b>II 負債総額</b>	811,764,112 円
<b>III 正味財産</b>	9,836,661,602 円

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地	40,651.08 m <sup>2</sup> 6,611,281,447 円
建物	22,306.66 m <sup>2</sup> 3,030,160,196 円
構築物	67 点 116,084,778 円
図書	65,097 冊 172,498,542 円
教具・校具・備品	2,296 点 53,196,609 円
その他	52,949,050 円
2 運用財産	
現金預金	479,445,034 円
その他	132,810,058 円
資 産 総 額	10,648,425,714 円
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	368,720,000 円
その他	70,593,314 円
2 流動負債	
短期借入金	88,730,000 円
その他	283,720,798 円
負 債 総 額	811,764,112 円
正味財産（資産総額－負債総額）	9,836,661,602 円

# 貸借対照表

平成 25 年 3 月 31 日

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	10,105,555,393	10,233,882,270	△ 128,326,877
有形固定資産	9,983,221,573	10,108,695,286	△ 125,473,713
土地	6,611,281,447	6,611,281,447	0
建物	3,030,160,196	3,139,114,018	△ 108,953,822
その他の有形固定資産	341,779,930	358,299,821	△ 16,519,891
その他の固定資産	122,333,820	125,186,984	△ 2,853,164
流動資産	542,870,321	570,937,600	△ 28,067,279
現金預金	479,445,034	539,698,320	△ 60,253,286
その他の流動資産	63,425,287	31,239,280	32,186,007
資産の部合計	10,648,425,714	10,804,819,870	△ 156,394,156

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	439,313,314	531,973,074	△ 92,659,760
長期借入金	368,720,000	455,050,000	△ 86,330,000
その他の固定負債	70,593,314	76,923,074	△ 6,329,760
流動負債	372,450,798	369,612,960	2,837,838
短期借入金	88,730,000	88,330,000	400,000
その他の流動負債	283,720,798	281,282,960	2,437,838
負債の部合計	811,764,112	901,586,034	△ 89,821,922

基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第 1 号基本金	15,067,495,886	14,990,867,518	76,628,368
第 4 号基本金	213,000,000	213,000,000	0
基本金の部合計	15,280,495,886	15,203,867,518	76,628,368

消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	5,443,834,284	5,300,633,682	△ 143,200,602
消費収支差額の部合計	△ 5,443,834,284	△ 5,300,633,682	△ 143,200,602

科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	10,648,425,714	10,804,819,870	△ 156,394,156

## 資金収支計算書

平成 24 年 4 月 1 日から  
平成 25 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	457,587,000	457,915,982	△ 328,982
手数料収入	10,886,000	10,927,300	△ 41,300
寄付金収入	14,210,000	11,579,439	2,630,561
補助金収入	341,719,000	356,633,241	△ 14,914,241
国庫補助金収入	59,851,000	74,740,000	△ 14,889,000
地方公共団体補助金収入	265,070,000	265,095,891	△ 25,891
その他補助金収入	16,798,000	16,797,350	650
資産運用収入	18,474,000	19,310,683	△ 836,683
資産売却収入	0	24,754	△24,754
事業収入	6,544,000	9,446,262	△ 2,902,262
雑収入	45,356,000	52,323,481	△ 6,967,481
借入金等収入	2,800,000	2,600,000	200,000
前受金収入	221,027,000	212,171,000	8,856,000
その他の収入	53,656,000	44,555,570	9,100,430
資金収入調整勘定	△ 242,539,000	△ 250,035,175	7,496,175
前年度繰越支払資金	539,698,000	539,698,320	△ 320
収入の部合計	1,469,418,000	1,467,150,857	2,267,143
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	526,299,000	531,496,376	△ 5,197,376
教育研究経費支出	196,489,000	188,519,180	7,969,820
管理経費支出	121,942,000	116,334,549	5,607,451
借入金等利息支出	9,985,000	9,985,640	△ 640
借入金等返済支出	88,530,000	88,530,000	0
施設関係支出	5,357,000	4,210,500	1,146,500
設備関係支出	8,963,000	11,309,244	△ 2,346,244
その他の支出	70,416,000	71,013,611	△ 597,611
予備費	15,000,000	0	15,000,000
資金支出調整勘定	△ 24,835,000	△ 33,693,277	8,858,277
次年度繰越支払資金	451,272,000	479,445,034	△ 28,173,034
支出の部合計	1,469,418,000	1,467,150,857	2,267,143

# 消費収支計算書

平成 24 年 4 月 1 日から  
平成 25 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	457,587,000	457,915,982	△ 328,982
手数料	10,886,000	10,927,300	△ 41,300
寄付金	14,210,000	11,841,855	2,368,145
補助金	341,719,000	356,633,241	△ 14,914,241
国庫補助金	59,851,000	74,740,000	△ 14,889,000
地方公共団体補助金	265,070,000	265,095,891	△ 25,891
その他補助金	16,798,000	16,797,350	650
資産運用収入	18,474,000	19,310,683	△ 836,683
事業収入	6,544,000	9,375,271	△ 2,831,271
雑収入	45,356,000	52,953,481	△ 7,597,481
帰属収入合計	894,776,000	918,957,813	△ 24,181,813
基本金組入額合計	△ 86,784,000	△ 76,628,368	△ 10,155,632
消費収入の部合計	807,992,000	842,329,445	△ 34,337,445
消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	524,504,000	529,700,696	△ 5,196,696
教育研究経費	322,498,000	311,912,667	10,585,333
管理経費	136,905,000	129,844,287	7,060,713
借入金等利息	9,985,000	9,985,640	△ 640
資産処分差額	1,326,000	1,917,523	△ 591,523
徴収不能引当金繰入額	0	2,169,234	△ 2,169,234
予備費	15,000,000	0	15,000,000
消費支出の部合計	1,010,218,000	985,530,047	24,687,953
当年度消費支出超過額	202,226,000	143,200,602	
前年度繰越消費支出超過額	5,300,634,000	5,300,633,682	
翌年度繰越消費支出超過額	5,502,860,000	5,443,834,284	

# 村田学園 平成24年度事業報告書

自平成24年4月1日 至平成25年3月31日

## 1. 法人の概要

### (1) 設置する学校・学部・学科等

- ① 東京経営短期大学  
経営総合学科
- ② 村田女子高等学校  
普通科  
商業科
- ③ 村田学園小石川女子中学校

### (2) 当該学校・学部・学科等の入学実員数・総実員数（平成24年5月1日現在）

学校名	学部・学科等名	入学定員数	入学実員数	総定員数	総実員数
東京経営短期大学	経営総合学科	180人	119人	360人	235人
村田女子高等学校	普通科	80人	68人	240人	205人
	商業科	82人	56人	246人	162人
村田学園小石川女子中学校		80人	4人	240人	29人
合計		422人	254人	1,086人	631人

### (3) 役員・評議員・教職員の概要等（平成24年5月1日現在）

#### ① 役員概要

定数・人数	区分	職名	担当職務	常勤/ 非常勤	氏名
理事 定員9人以上13人以内 (実員10人)	第1号	理事長	総理	常勤	岡部 徳三
		常務理事	高校中学	常勤	伊藤 淑子
	第2号	常務理事	短期大学	常勤	松江由美子
			高校中学	常勤	倉田 政子
			財務	常勤	細谷 宣夫
			短期大学	常勤	寺村 晴充
	第3号	理事	財務 経営改善	非常勤	竹田 剛志
			業務 経営改善	非常勤	摺木 崇夫
			総務	非常勤	太田 宗男
総務			非常勤	中村 良彦	
監事 定員2人 (実員2人)		監事		非常勤	真田 剛
				非常勤	清澤清一郎

② 評議員の概要

定数・人数	区分	常勤/ 非常勤	氏名
評議員 定員19人以上27人以内 (実員22人)	第1号	常勤	岡部 徳三
		常勤	伊藤 淑子
	第2号	常勤	松江由美子
		常勤	倉田 政子
		常勤	寺村 晴充
		常勤	石川 初男
		常勤	篠崎 誠二
	第3号	常勤	細谷 宣夫
		常勤	今田 茂司
		常勤	四條 英俊
	第4号	非常勤	竹田 剛志
		非常勤	摺木 崇夫
		非常勤	太田 宗男
		非常勤	中村 良彦
		常勤	佐久間 康
		常勤	宮谷 聡美
		常勤	泉谷 尚俊
常勤		二渡 道雄	
非常勤		助川 幸彦	
非常勤		相田 修	
非常勤	飯塚美知男		
非常勤	平柳 雅三		

③ 教職員の概要

	教 員			職 員		
	専任	非常勤	計	専任	非常勤	計
東京経営短期大学	18人	19人	37人	14人	9人	23人
村田女子高等学校	30人	13人	43人	5人	4人	9人
村田学園小石川女子中学校	8人	1人	9人	3人	1人	4人
法人本部	—	—	—	1人	1人	2人
合計	56人	33人	89人	23人	15人	38人

2. 財務の概要

帰属収支経年比較

(単位：円)

	平成24年度	平成23年度	平成22年度
帰属収入合計	918,957,813	956,587,410	1,044,518,253
消費支出合計	985,530,047	982,331,767	990,762,545
帰属収支差額	△ 66,572,234	△ 25,744,357	53,755,708

### 3. 事業の概要

#### (1) 東京経営短期大学

##### 1. 教育・研究

##### (1) カリキュラムの改善

平成 25 年度からの入学定員 150 名、収容定員 300 名の規模を前提とした科目数の整理と、就職支援に関する科目の充実を図った。主な変更点は次のものである。

- ・ キャリア支援として、共通選択必修科目群の追加
- ・ 各コース推奨資格・検定合格率アップのための授業回数の追加（補講の強化）

今回の改善の結果、それまでの 147 科目を 125 科目にまで絞ったスリムな編成となった。また、履修規程の見直しの中で、成績評価の改訂を行った。

(2) 一般学生の基礎学力向上のために、ゼミナールを中心に指導を行った。外国人留学生の日本語能力向上については、N1 の受験を推奨した。

##### (3) 平成 24 年度 各種検定試験等の合格状況（1・2 年合計）

主な検定	平成 24 年度 実績			平成 23 年度実績	平成 22 年度実績	平成 24 年度 目標 合格率%	主とする コース
	合格 者数	受験 者数	合格率%	合格率%	合格率%		
全経 税務 所得 1 級	10	13	77	75	88	100	会計税務
〃 所得 2 級	7	12	58	82	80	100	
〃 所得 3 級	13	15	87	87	86	100	
〃 法人 3 級	1	3	33	88	87	100	
〃 消費 1 級	7	11	64	100	73	100	
〃 消費 2 級	7	12	58	78	79	100	
〃 消費 3 級	22	22	100	96	100	100	
全経 簿記 1 級会計	5	19	26	100	89	89	会計税務 他
〃 1 級工業簿記	8	9	89	100	94	95	
〃 2 級	22	35	63	83	84	69	
〃 3 級	33	47	70	82	61	68	
日商 簿記 1 級	1	2	50	-	-	-	会計税務
〃 2 級	7	21	33	58	27	53	会計税務
〃 3 級	15	39	36	33	28	28	会計税務 他
秘書検定 準 1 級	2	5	40	25	25	30	生活心理 企業経営
〃 2 級	22	48	46	66	35	70	
〃 3 級	40	47	85	66	28	80	
メディカルクラーク（医療事務）	15	35	42	41	30	60	医療秘書
医事オペレータ	12	15	80	100	100	90	
ケアクラーク（介護事務）	9	24	38	54	25	60	
調剤報酬請求事務認定	申請者 7 名	-	-	申請者 20 名	-	-	
ドクターズクラーク（医師補助事務）	2	7	29	-	-	40	
医療秘書実務技能検定 3 級	1	7	14	-	-	-	
日商 販売士 2 級	1	1	100	-	-	-	企業経営
日商 販売士 3 級	5	9	56	20	40	50	生活心理
AFT 色彩検定 2 級	3	4	75	63	67	100	生活心理

AFT 色彩検定 3級	6	14	45	85	56	85	
メンタルヘルス・マネジメントⅢ種	1	2	50	100	33	60	生活心理
認定 アシスタント・ホスピタリティ・コーディネータ	申請者 10名	-	-	申請者 8名	申請者 19名	-	生活心理 企業経営
ファイナンシャルプランナー FP2級	1	1	100	-	100	-	会計税務 他
ファイナンシャルプランナー FP3級	2	2	100	-	100	100	
スノーボードバッジテスト 3級	2	2	100	100	56	100	コース共 通
4級	7	10	70	100	100	100	
日本語能力検定(留学生) N1	3	13	23	-	-	-	留学生共 通
日本語能力検定(留学生) N2	1	5	20	-	-	-	

(4) 研究紀要第21巻(86頁、論文6編)を発刊した。

(5) ゼミナール担当者会議を月1回のペースで開催、ゼミナール運営と学生の情報交換を行った。

## 2. 学生支援

### (1) 平成24年度卒業生の進路結果

平成24年10月1日時点における一般学生就職内定率は全国短大平均を上まわったものの、その後伸び悩んだが最終的には94.0%となった。

#### ・一般学生 63名

就職希望 50名 決定47名、未決定3名(決定率94.0%)

その他 13名(アルバイト先で正社員を目指す4名、アルバイト5名、劇団員1名、公務員再受験1名、未定2名)

#### ・外国人留学生 36名

就職希望 19名 決定14名、未決定5名(決定率73.7%)

進学 6名(四大編入5名、大学院1名)

帰国 8名

その他 3名(起業1名、不明2名)

### (2) 学生アンケート

年2回「学生アンケート」を実施。授業に関すること、施設についてなどのアンケートから、学生の声を授業やキャンパス環境の改善に生かしている。

### (3) 学長奨励賞と資格奨励賞

平成24年度の受賞者数 学長奨励賞 20名、 資格奨励賞 34名

## 3. 学生募集

入学相談室を中心に他の教職員の応援も得て、高等学校と日本語学校の訪問を精力的に行い、本学の紹介とオープンキャンパス・体験入学案内をPRした。

[学校訪問] 高等学校 848校(回)、日本語学校 117校(回) 計 965校(回)

[ガイダンス] 高等学校 31校、 日本語学校 3校 計 34校



[会場ガイダンス] 一般学生 23 会場、 外国人留学生 13 会場 計 36 会場

オープンキャンパス・・・19回 参加延べ人数 183名（前年比+6名）  
体験入学・・・・・・・・・・2回 参加延べ人数 60名（前年比+17名）

#### 4. 地域貢献

- ・オープンカレッジにおける公開講座を7講座開講、一般聴講生は63名であった。
- ・高大連携は平成24年度2校と提携を結び、2名の聴講生があった。

#### 5. 施設・設備

老朽化に伴う208PC教室のシステム更新（端末41台とそれに伴うシステム）を行った。

#### 6. その他

- ・保護者の集い・・・大学行事として、平成25年2月9日（土）午後開催した。
- ・改革委員会・・・学長の諮問機関である改革委員会を、年間16回開催した。
- ・各種委員会・センター・部署等の平成24年度年間計画発表会を平成24年5月9日（水）に、活動報告会を平成25年4月24日（水）に開催した。

### (2) 村田女子高等学校

#### 1. 本校が育成する「Yes, I Can.」の明確化

全教職員が本校の教育理念である「社会に貢献できる女性の育成」を念頭に、学習活動・ホームルーム活動・クラブ活動・学校行事等のあらゆるシーンを通して、生徒の中のまだ眠っている可能性を引き出し、「Yes, I Can. ～ 私にはこれができます！」につなげるような指導を展開してきた。こうした働きかけは、生徒一人ひとりの心の中の“やれば出来る”という自信につながっているものと確信している。

#### 2. 「面倒見の良い村田」と同時に、「進学村田」へ

「面倒見の良い村田」は広く定着している。高校卒業時の進路指導結果に寄せる保護者や中学校や塾の先生方の信頼は厚く、これが村田女子高等学校の存在理由へとつながっているものと確信している。この3月に卒業した121名の生徒たちは、3年生の4月より一人の退学者もなく、自らの進路を決め、次のステップへと巣立っていった。この厳しい就職環境の中にあっても就職希望者15名は11月1日までに内定をいただけた。生徒の努力の成果ではあるが、ここにこそ「面倒見の良い、就職に強い村田」の伝統が生きていると言える。また、進学実績も期待に答えている。本校の進学指導は、「一人ひとりの個性・特性にあわせたキャリアデザイン支援」が根底にあり、基礎学力をしっかりと身につけた上で、将来の人生設計に合わせて、その選択肢を広げられるように行われている。その結果、進学を志した生徒たちやその家庭からは大いに満足を現す言葉を頂けた。

## 平成 24 年度の卒業生の進路状況

大学	61 名
短大	13 名
専門学校	27 名
就職	15 名
家事・その他	5 名
合計	121 名

\* 具体的な進路一覧は別紙の通りである。

### 3. 校務分掌の活性化

学校教育活動は、教職員の分業と協業を機能的に組織し、進められなくてはならないと考える。

学校教育活動（教科活動・ホームルーム活動・クラブ活動・学校行事）とはそれらの活動を通して、最終的に「学校の教育理念」へと導かれていかなければならないものである。各クラス・各学年・各校務分掌が相互的に作用し合いながら、学校は回っていることをしっかり認識し、生徒指導にあたり、学校力のアップにつなげていけるような活動を図らなければならなかったが、なかなか思うようには機能しえなかった。これらの反省をもとにこれからこそさらに「校務分掌の活性化」に真摯に取り組みたい。

### 4. 村田女子高等学校の構成とその目標

二科四コースにおける目標を次の通りとし、ほぼそのように達成できている。

普通科	$\left\{ \begin{array}{l} \text{Advanced Course (一貫コース+特進コース)} \\ \text{国公立、私立上位校への現役合格を目指す} \\ \text{Standard Course} \end{array} \right.$

普通科ながら資格取得にもチャレンジし、推薦、A0 入試で現役合格を目指すと共に、他校（都立の普通科）との差別化を図り、就職実績を残す。

商業科	$\left\{ \begin{array}{l} \text{Advanced Course} \\ \text{2 年生までに 1 級資格を取得、資格推薦で国公立、私立上位大学を目指} \\ \text{Standard Course} \\ \text{検定試験に着実に合格させ、推薦、A0 入試で現役合格を目指すと共に、} \\ \text{就職においては 100\% を目指す。} \end{array} \right.$

商業科検定試験 3 種目以上 1 級合格者の状況

5 種目 1 級合格者	1 名
4 種目 1 級合格者	3 名
3 種目 1 級合格者	6 名
計	10 名

## 5. 広報活動の展開

平成 24 年度に行った主なる広報活動は以下の通りである。

- ・ オープンスクール 4 回
- ・ 学校説明会 8 回
- ・ 塾対象説明会 2 回
- ・ 中学校で行う進路説明会 27 校
- ・ サクセス面接講座 41 校
- ・ 外部入試相談会 25 回
- ・ 中学校訪問数（春、秋約 500 校）
- ・ 訪問塾 約 180 塾

## 6. 目標生徒確保数

125 名

上記の数字を目標としたが、結果的には、137 名（内進生 8 名）の入学者となった。その内訳は、商業科 66 名、普通科 71 名。また、普通科 Advanced コースへの入学者は 14 名。毎年のことであるがこのコースへの入学者は横ばい状態であり、今後の学校力アップのためにも、更なる募集対策が強化されなければならない。結果的には目標数値は越えられたが、本校への第一希望者数は昨年よりも減少しており、厳しい状況に変わりはない。この状況の打破のための広報活動が必須となる。

また、平成 24 年度の広報活動の主たる目標は「受験生の増大」であった。受験生という裾野が広がれば、歩留まりにおいても期待が持てるからである。すべての広報活動は、「生徒・保護者を学校に呼ぶ」ことであり、そこで直接「村田」をアピールしてゆくこと、受験校として選んでもらうことであった。

たとえ併願校であれ「選ばれる学校」でなくてはならない。この考えに添って、今後も更なる研究を重ね、受験生の増大へとつなげたい。

	平成 24 年度	平成 25 年度
学校見学者	572 名	653 名
応募者数	315 名	367 名
入学者数	123 名	137 名

### (3) 村田学園小石川女子中学校

#### 1. 「サイエンスレディ」の育成

論理的思考力を身につけさせることにより、高校進学後の進路選択の幅を広げ、さらには大学進学に備えることを目標としている。その第一歩として、宿泊体験学習や研究・調査・発表型の総合学習などを取り入れた。

	宿泊体験学習	
1 年生	・ オリエンテーション合宿（箱根）	1 泊 2 日
	・ 北軽井沢高原教室（北軽井沢）	3 泊 4 日
	・ スキー教室（長野）	2 泊 3 日
2 年生	・ ツインリンクもてぎ（栃木）	2 泊 3 日
	・ ランゲージ・ピレッジ（静岡）	2 泊 3 日
	・ スキー教室（長野）	2 泊 3 日
3 年生	・ 京都・奈良への修学旅行	2 泊 3 日
	・ オーストラリア語学研修	7 泊 9 日

- ・ こうした宿泊体験学習を通して、生徒たちの学びへの興味を引き立てるという当初の目標は、ほぼ達成した。
- ・ キャリアデザインを踏まえた女性研究者の講演を聞く「サイエンスレディー講演会」や、大学や研究機関と連携した授業を実施した。具体的には以下の通り
  - 菅沼 薫（フジテレビ商品研究所）「肌から健康美」
  - 中西 利恵（エイムデザイン研究所）「おうち歳時記」
  - 長谷川由貴（埼玉大学大学院）「でんきを体感」
  - 埼玉大学大学院理学研究科との充電式ソーラーカー研究開発体験プロジェクト

## 2. 学習支援

- ・ 「朝学習」「放課後フォローアップ講習」「学習ノート」などを通して家庭学習の定着をはかった。
- ・ 英語検定、漢字検定の合格に向けての受験対策支援をした。
- ・ 実力試験（ベネッセ学力推移）・「夏期講習」「冬期講習」「春期講習」などの実施で学力の向上と自ら学ぶ意識の向上をはかった。

## 3. 進路状況

三期生 9 名中、8 名が村田女子高等学校への進学を希望した。本人の学力・適性を考慮し、中高一貫コースに 2 名、普通科スタンダードコースに 6 名が進学した。（1 名はダンス専門の高等課程へ進学した）

## 4. コミュニケーションプログラムの活用

カウンセリング技法の一つである構成的グループエンカウンターを用いた「コミュニケーションプログラム」は、生徒のコミュニケーション能力、自己肯定感を高め、より良い集団づくりに効果を挙げている。明治大学教授の諸富祥彦先生の監修・指導の下、全教員がそれぞれの場面で実践できるように、全員研修を 2 回、また中学校担当者のみの研修を 2 回実施した。

## 5. 広報活動の展開

広報活動の基本は校内での「教育」と「環境」である。その充実をはかりながら、受験生とその保護者にとって本校が第一志望校になるための広報活動を行ってきたが、24 年度の入学者が 4 名であったことは広報的においては大きなマイナス要因となった。

- ・ オープンスクール 3 回
- ・ 学校説明会 5 回
- ・ 入試問題解説会 3 回
- ・ 入試直前解説会 1 回
- ・ 全教員による塾訪問
- ・ Murata Cup（サッカー 1 月）
- ・ 村田杯（バスケットボール 10 月）

生徒確保目標数を 15 名として募集活動してきたが、残念ながら入学者は 7 名に終わった。この数は教育現場においても、また今後の広報活動においても厳しいものになってくることは覚悟しなくてはならないと受け止めている。

この結果と過去 5 年間の経験をふまえ、今一度原点に立ち戻り、「教育内容」は勿論だ

が、教員集団を含めた「村田」の持つ文化や価値観などを強くアピールしてゆくために、平成 25 年度より校名を「村田女子中学校」に改め、女子教育 83 年の伝統を持つ「村田女子高等学校」との一体感を前面に押し出すことにした。ここに改めて「預けて安心」「進学させて安心」という「信頼の村田」に重点をおいた学校作りを目指すものとした。

平成 25 年度入試の結果は次の通り

	24 年度	25 年度
出願者	17 名	12 名
受験者	13 名	9 名
合格者	9 名	8 名
入学者	4 名	7 名

以 上

# 監査報告書

平成25年 5月27日

学校法人 村田学園  
理事会 御中  
評議員会 御中

学校法人 村田学園

監事

真田 剛



監事

清澤 清一郎



私たちは、学校法人村田学園の監事として、私立学校法第37条第3項及び寄附行為第14条の定めに基づき、同学校法人の平成24年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）における事業報告書、財産目録及び計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表及び附属明細表）を含め、学校法人の業務及び財産の状況について監査を行いました。

## 1. 監査方法の概要

私たちは監査にあたり、理事会及びその他の重要な会議に出席するほか、理事からの事業の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査し、また会計監査人である明翔監査法人との連携をとり、必要と思われる監査手続を実施しました。

## 2. 監査の結果

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法令及び寄附行為に従い、学校法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関しては不正の行為がなく、法令及び寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上